

# 子育てが辛い社会を変えるために

「おうち保育園」についてNPO法人フローレンスの中村優子さんとお話しました。



NPO法人フローレンス  
中村優子さん

私、本目さよは、今まで企業の人事担当者として「仕事と子育てが当たり前」に両立できる会社を目指して働いてきましたが、更に社会全体での取り組みとなるように、区政から変えていくこととしました。

その政策の一つである、「おうち保育園」をはじめとする保育政策について、NPO 法人フローレンスの中村 優子さん（元伝える変える事業部長、現在育児休業中）から、活動の内容や区政への働きかけ等についてお聞きしました。



## おうち保育園とは？

**本目：**いま子育てが辛い社会になってしまっていると感じています。収入の面だったり、育児の孤独化だったり。このままだと、若い世代がなかなか子どもを産みたくない。まずは現在の子育てが辛い社会を終わらせたいと私は考えています。

そのために必要なことは、**第一に保育園の待機児童の解消**だと思います。台東区でも50名以上の待機児童がおり、潜在的な待機児童数はこの数倍ものほると言われています。しかし、公立の保育園をつくるためにはお金も時間もかかります。NPO フローレンスさんでは、この問題を解決するための新しい事業をはじめられたのですよね。

**中村：**はい。フローレンスでは、子どもが病気の時にも面倒を見てもらえる病児保育を中心に事業の展開をしてきましたが、昨年より新しく「**おうち保育園**」という事業を始めました。内容とメリットは次のようになります。

### おうち保育園とは

● 空きマンションの一室などを使用して1人の保育スタッフが3人の保育をし、施設全体では9人の子どもを保育するというサービスです。

#### メリットは

- 基本的に施設の増改築等の初期投資がかからないモデルであること。
- 少人数の保育で家庭的な保育が受けられることです。

## 導入に当たっての課題、予算は？

**本目：**おうち保育園の話を知ったとき、今の時代にとってもマッチしているサービスだと感じました。比較的簡単に、**必要とされている0～2歳児を対象とした保育サービスを導入できる**ということ、また**集団保育ではない家庭的な保育の選択肢が少人数保育のデメリットなしに利用者が享受できる**というのは、とても素晴らしいですよね。台東区にもぜひ導入したいです。

導入に当たって課題はなんですか？また、初期費用はどの程度かかるものなのでしょうか？

**中村：**かけられる予算にもよりますが、300万円程度あればおうち保育園を導入することが可能です。課題は、物件です。保育をするのにあたってあまりに古かったり、内装の工事をしなければならぬような物件だと、初期投資がかかってしまいます。

**本目：**なるほど。初期投資が少なくすむためには、保育をするのに適切な物件が必要なんですね。でも、費用が安いんですね。認可保育園だと2億程度はかかると聞いたことがあります。あと何が必要ですか？

**中村：**普通の賃貸マンションで保育をするので、棚や食器、布団やおもちゃ等の備品を用意する必要があります。費用が足りない場合は現物の寄付を募る場合もあります。

**300万円ちょっとで待機児童が10人ほど解消できるならかなり費用対効果は高い**と言えます。

## 認可・保育士資格については？

**本目：**おうち保育園では、**資格を持っていない子育て経験者も保育をするのですよね？**少し不安があります。

**中村：**たしかに、全員が資格を持っていないとご不安な方もいらっしゃるかもしれません。フローレンスのおうち保育園では次のような体制を敷いています

- リーダー人材に関しては有資格者かつ集団の乳児保育経験がある方を採用。採用やフォローアップ研修に力を入れています。
- 複数の保育スタッフが互いに協力。万が一の事故や虐待等のリスクが防げると考えています。
- ベテランの保育者が定期的におうち保育園を巡回。常に風通しの良い開かれた家庭的保育の実現が可能です。

**本目：**少人数制の家庭的保育のメリットだけを受用できる仕組みになっているんですね！これからの社会では、待機児童の解消はもちろん、多様な働き方にあわせて柔軟に保育体制が選べるとういんですよね。**私の想いの中に「働き方に合わせ選べる保育体制の確立」であり、その方法の一つとして「おうち保育園」の普及拡大があるのです。**

## 子育てが「辛い」社会を終わらせるために必要なこと

**本目：**最後になりますが、子育てが「辛い」社会を終わらせるために何が重要だと思いますか？

**中村：**フローレンスが提案しているのは、**保育事業に直接投資するのではなく子育て家庭に子育てバウチャー（クーポン）を支給すること**です。例えば〇〇区は保育ママの人気の高い、とか、△△区はベビーシッターのニーズが高いなど、地域・家庭によって必要なものが違います。また制度や箱物をつくってしまうと人口や状況に応じてスムーズに変更・対応することが難しいため、費用対効果が低くなってしまいます。バウチャーに費用をかけることで市場を育てる方が効率的なのです。バウチャーが使えるのはベビーシッター・病児保育・保育園の月謝、子育てに関連していることだったら何でもです。バウチャーによる市場の活性化により、本当に必要なサービスだけが残っていきますので、もしもおうち保育園も市場に必要とされなければ淘汰されていくというわけです。

**本目：**なるほど。**市場の活性化により、より需要のあるサービスが提供される**ということなんですね。その中で親へのサービスだけでなく、子どもの教育にとっても良いサービスが提供されるような仕組みを整えていく必要がありますね。社会全体で子育てをする仕組みを整えていくことで、子育てが「辛い」社会が終わると私も思っています。

私は、子育てが「辛い」社会を終わらせるために7つの政策を掲げています。その一つは先ほど述べた**働き方に合わせて選べる保育体制の確立**です。中村さんがおっしゃるバウチャーに相当するのが**子育て家庭の金銭的支援**です。世帯年収がどんどん減っている中で、バウチャーの仕組みは考えていなかったのですが、ぜひ検討していきたいと思います！

**中村：**ぜひ！楽しみにしています！

**本目：****私は子育ての大変さが、本人の努力で乗り越えられない状況を何とかも変えたいんです！**そうでなければ、私も安心して子どもを産めません。

**中村：**そうですね。**若い世代が子どもを産みたいと思えるようになれば、日本の少子化はとまらない**ですよね。私の夫は子どもを沢山欲しいというのですが、私自身はやはり不安もあり2人までしか今のところは考えられません。でも、社会全体で子どもを育てられる仕組みがあれば、もっと欲しいんです。

**本目：****一緒に子どもを安心して産み育てられる社会をつくっていきましょう！**自分たちのためにも！



本目さよと笑顔をつくる会 〒110-0001 台東区谷中1-5-11 E-mail: hommesayoinfo@gmail.com

TEL 03-5815-5060 FAX 03-3821-1078 <http://www.sayohomme.com> 本目さよ